特集1

未来を耕す、次世代の担い手たち

園芸カレッジで学び、独立就農を果たしたブドウ農家。福井の農業を牽引するリーディングファーム。女性が活躍する大規模農園。本特集では、こうした次世代の農業の担い手たちにスポットを当てました。農業を活性化させ、農家を支援する県のさまざまな取り組みも紹介しています。

福井県は、豊かな大地や清らかな水に恵まれ、古くから米づくりを中心に農業が発展してきました。

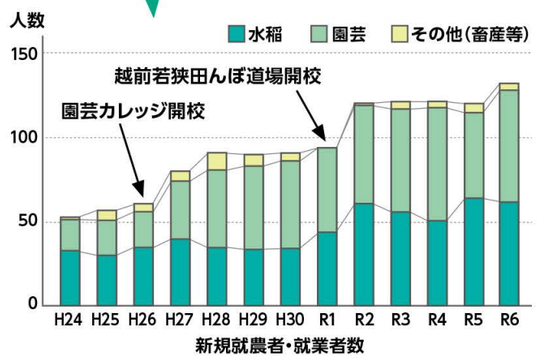
県産米をはじめ、多くの農産物が県民の食卓を支え、農業は今も地域の暮らしと深く結びついた重要な産業です。

しかし近年、農業に携わる就農者の減少に加え、農家の高齢化や後継者不足が深刻化しています。また、人口減少や若者の流出により、農村地域の活力低下も懸念され、担い手の確保が大きな課題となっています。

こうした状況を踏まえ、県では新たに農業を始める人や、大規模経営や複合化・多角化に取り組む意欲ある経営体などを幅広く支援しています。

また、産地を守り、福井の農業を次の世代へ引き継ぐため、担い手の育成に注力。加えて、女性や若者など多様な人材が農業に参画しやすい環境づくりを進めています。

新規就農者・就業者数の推移



園芸カレッジ（平成26年度～）や越前若狭田んぼ道場（令和元年度～）の開校により、新規就農者・就業者は増加傾向にあります。

お問い合わせ　園芸振興課／TEL.0776-20-0433

学ぶ・働く・広がる。福井で始める農業の第一歩

園芸カレッジで学び独立

山﨑ぶどう園
代表 山﨑佑介（やまざきゆうすけ）さん

ビニールハウスでブドウを育てます

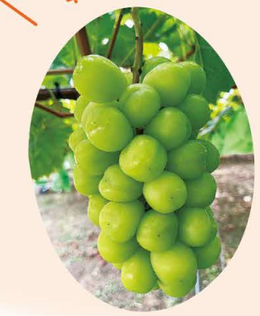
あわら市で「山﨑ぶどう園」を営む山﨑佑介さんは、シャインマスカットを中心に、ナガノパープルやクイーンニーナなど複数品種を栽培しています。約4反（約4，000平方メートル）の敷地にビニールハウスを設置し、8月からの収穫に向けて年間を通じた管理を徹底。粒の間引きや葉の管理など、一房ごとの完成度を高めるための繊細な作業を積み重ね、高品質なブドウ作りに取り組んでいます。

愛知県出身の山﨑さんは、以前、会社員としてものづくりに携わっていましたが、「自分の手で仕上げたものを直接お客様に届けたい」という思いが次第に強くなっていったといいます。その中で着目したのが農業でした。特に、一粒一粒に手をかけて仕上げていくブドウ栽培に魅力を感じ、縁のあった福井での就農を決意。

その挑戦を後押ししたのが、未経験から栽培技術や販売ノウハウを学べる「ふくい園芸カレッジ」です。令和2年に入校した山﨑さんは、里親農家のもとでの研修を経て、令和3年に独立就農。その後、半世紀以上の歴史を持つ石川県のブドウ園でも技術を学び、令和6年に初出荷を果たしました。「カレッジで出会った人とのつながりは、今でも大きな支えになっている」と山﨑さん。今後は「ブドウ産地化に向けて盛り上げる一翼を担いたい」と語ります。

ブドウのつぼみです

シャインマスカットを中心に栽培



県の取り組み　福井で農業を始めたい方へ

OTAMESHI（お試し）就農

県内で農業法人等への就業を希望する方を対象に、最長2か月の研修を行い、その後、雇用マッチングにつなげます。研修費の支給あり。

相談窓口

新規就農に関するご相談は　園芸振興課まで
TEL:0776-20-0433　メール:engei@pref.fukui.lg.jp

ふくい園芸カレッジ

農業を始めたい方や農家を目指す方に向けて、実践的に学べる研修を行っています。
「新規就農コース」は座学だけでなく、栽培から販売を模擬的に体験できるため、未経験の方でも新規就農を目指せます。
研修費は無料。令和9年1月入校希望者の申し込みは、令和8年8月から受け付けます。

詳細はこちら→

福井の農業を牽引する リーディングファームを育成

株式会社 永耕農産（えいこうのうさん）

代表取締役 辻川清和（つじかわきよかず）さん（右）
取締役 岡本竜平（おかもとりゅうへい）さん（左）

ドローンなど先端技術を活用

米や麦、そばなどを栽培しています

小浜市の株式会社永耕農産は、約85ヘクタールある田んぼで米を育てるほか、麦や大豆、そば、野菜などを栽培し、直売所での販売も行っています。同社は、高齢化や担い手不足といった地域の農業が抱える課題解決を目指し、集落営農を母体に平成29年に設立。代表取締役の辻川清和さんは「持続可能な農業経営に取り組み、地域の農地を未来に残す」ことが会社の役割だと語ります。

現在、取締役として辻川さんを支える岡本竜平さんは、地域おこし協力隊として小浜にUターン後、同社の研修生を経て、社員になりました。岡本さんが「農業経営に魅力を感じる若い人が増えている」と語るとおり、滋賀や静岡など県外から新たな人材が入社。さらに、この4月からは福井県立大学卒業生も仲間に加わりました。

直売所も運営し、地域との交流を深めています

また、同社はさらなる飛躍を目指し、令和6年度から県の「リーディングファーム育成プロジェクト」に参加しています。専門家のサポートを受けながら5か年の中期経営計画を作成し、発表会に臨んだ経験は「とても良い刺激になった」と岡本さんは振り返ります。

今後は県嶺南振興局と協力し、上空から農地の状態を把握できるセンシングドローンなどの先端技術の活用を進めます。そして、農地の生産性向上や作物の収益力強化に注力していく方針です。辻川さんは、「5年、10年先を見据え、経営を磨き上げていく」と意気込みます。

ドローンを活用して、収量向上

永耕農産を支えるみなさん

県の取り組み

農業経営力の強化を支援

リーディングファーム育成プロジェクト

「希望あふれる・かっこいい・稼げる・感動」の“4K農業”を実現するフラッグシップモデルとして、売上1億円を超える企業的な農業経営体（リーディングファーム）の育成に取り組んでいます。
令和6年度から農業経営塾を開催し、中小企業診断士など専門家とともに、経営計画の策定から実行まで伴走支援を行い、30経営体の新たな挑戦を後押ししてきました。
今年度は、人材育成に向けた研修会の開催も予定しています。

多様な人材が支える、これからの福井の農業

女性の力で新規事業が成功

ネギが新たな収益の柱になりました

農事組合法人 アバンセ乾側（いぬいかわ）
上村千春（うえむらちはる）さん

大野市のアバンセ乾側は、地域の農家約160戸が集まり設立された農事組合法人です。主力は水稲の種もみ生産で、11品種を栽培し、県内の米づくりを支えています。

園芸作物にも取り組む中、大きな力となっているのが上村千春さんの存在です。上村さんは子育てが一段落したのをきっかけに、より深く農業と関われる環境を求め、アバンセ乾側に就業しました。上村さんの加入によって、「白ネギの新規事業が軌道に乗り、里芋の生産力も格段に向上した」と事務局長の中村雅俊さん。「作物を育てるのは子育てのよう」と言う上村さんは、日々変化する畑の状態を見守り、手入れを欠かしません。「愛情をかけて作物を育てることにやりがいを感じる」と目を細めます。

女性専用の更衣室を完備

アバンセ乾側では、上村さんの他、女性の従業員が働いています。そうした女性たちが存分に活躍できる土台となっているのが、職場の環境づくりです。子育てや家庭を優先できる柔軟な働き方や、動きやすい服装の支給、更衣室やトイレといった女性専用設備の整備にいち早く取り組んできました。

今後は、女性がより働きやすいように「機械化による作業負担の軽減を推進する」と中村さん。「体をいたわりながら、自分の経験を次の世代に伝えたい」という上村さんの目標は、実現に向かっています。

フォークリフトも運転します

県の取り組み

多様な担い手の活躍

障がい者

農業の人手不足解消と障がい者の働く場の拡大のため、農業と福祉が連携する「農福連携」に試行的に取り組む事業者への補助を行うとともに、農福連携サポーターが現場での作業を支援しています。

外国人材

外国人労働者の方が安心して農業に従事できるよう、外国語による作業マニュアルの作成支援や自動車運転免許などの取得支援、さらに冷暖房設備の導入など居住環境の整備に係る経費を支援しています。

女 性

トイレや更衣室の整備、負担軽減につながる省力化機械等の導入など、女性が働きやすい環境づくりを支援しています。
また、女性リーダーの育成に向けて、資格取得や講座の受講などスキルアップを応援しています。

農業分野での女性活躍を推進します→